

北海道議会議員
安住たかのぶ
活動報告

アズミライ

azumirai
magazine

01
創刊号

produced by Azumi Takanobu office



安住の北海道未来設計図

道政との係わり、取り組みを
毎号、分かりやすく
ひもといていきます。

「アズミライ」発刊に寄せて

4月13日(月)午前1時30分過ぎ。

投票終了から既に5時間以上が過ぎていました。

時折、「そこまで競っているのか…」「やはり今回も…」との思いが脳裏をかすめる中、突如、飛び込んできた「当確」の報に、思わず叫びながら飛び上がり、じっとテレビの前で固まっていた家族と抱き合い喜び合ったことを、今も昨日のことのように思い出します。

23,363票。3位の方を、ほぼ3千票上回る差での堂々の2位当選。「北海道議会議員 安住太伸」が誕生した瞬間でした。

紆余曲折ありましたが、変わらぬ故郷への思いを胸に戦い続けた5年間。この間、支え続けてくれた家族や支援者の皆さまへの感謝とともに、いつまでもあの日の感動を忘れることなく、そのご期待に応えるため、与えていただいた仕事に全力で取り組んでまいります。

遠くない将来、北海道と愛する故郷、旭川で暮らす誰もが皆、未来への確かな希望を持って日々の暮らしを営むことができる、そんな北海道、旭川を取り戻すために。

安住の描く「北海道未来設計図～アズミライ」の始まりです。皆さん、どうかよろしくお願ひ申し上げます!



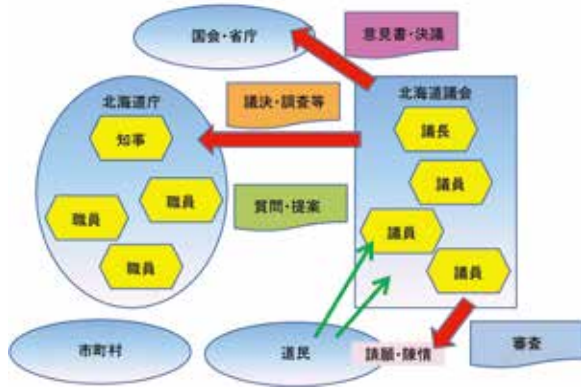
北海道議会議員の仕事は
多岐にわたります。
その一つ一つを
真剣に、丁寧に、
取り組みます。



「北海道議会」って何するところ？

知事も道議も、それぞれが直接、道民による選挙で選ばれています(二元代表制)。そこが国の仕組みとの大きな違いの一つです(首相は「衆議院(議会)」が選ぶ)。

議会の役割は大きく二つ。知事や道(執行部)の仕事を質す「チェック機能」。同時にまた、選挙等を経て受け止めた皆さまの願いや、議員個々の政策・政治信条等を実現するために議論を戦わせることで、議会全体としての意思を創り上げていく「合意形成機能」です。具体的には、議決や調査、質問や提案といった課程を通じてそうした機能を果たすのが、北海道議会および道議の仕事です(図参照)。



じゃあ、「議会」の中身はどうなってるの？

議会には、「本会議」と「委員会」という大きく2種類の会議があります。本会議には、読んで字の如く、年4回の「定例会」と臨時に行われる「臨時会」があり、委員会には、常設型の「常任委員会」、議会の運営全般を取り仕切る「議会運営委員会」、改選期、会期ごとの必要に応じて設置される「特別委員会」の大きく3種類があります。



どんな「常任委員会」があるの？

常任委員会は九つで、行革などを所管する「総務」、重要政策などを所管する「総合政策」、環境保全などを所管する「環境生活」、社会福祉などを所管する「保健福祉」、商工業や観光振興などを所管する「経済」、農業や農業基盤整備などを所管する「農政」、水産業振興などを所管する「水産林務」、道路や都市整備などを所管する「建設」、学校教育などを所管する「文教」があります。

「議会運営委員」はどんな事をするの？

議会の「効率的な運営」に向け、質問の順番を決めたり、所要時間の見通しを立てる他、議会の「規則等」を定めたり、議長から「諮問を受けた事柄に対し調査」を行ったりすることで、「議会運営全般」を取り仕切ります。

どんな「特別委員会」があるの？

頭に冠する名称通り、改選を経て、そのそれぞれを目的として設置された「産炭地域振興・エネルギー問題調査」「北方領土対策」「新幹線・総合交通体系対策」「人口減少問題・地方分権改革等調査」「少子・高齢社会対策」「食と観光対策」の六つに、「予算審査」「決算審査」を加えた計八つです。

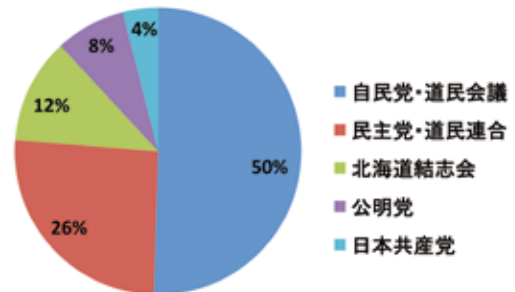


「議会」って年間どのくらいやってるの？

主な会議で日数を数えると、4回の定例会で年間88日間。常任委員会と特別委員会が、毎月第1火曜日と翌水曜日の開催で同じく24日間(一部、定例会の会期に含む)。さらに「決算審査」のための特別委員会がおよそ40日間となり、これに臨時会や議会運営委員会を合わせると、その年にもよりますが、大体170日前後といったところ(予算審査は、定例会会期中に行われます)。

ただし、質問のための各種調査や打合せ、会派での会議や勉強会といった活動時間はこの日数に含まれておりません。従って、一部、上記「会議」中の空き時間や前後の時間でそうした活動に充てる分があるとしても、議会での実際の活動日数はもう少し伸びることになります。

なお、円グラフと最後の表は、改選後の議会構成を、会派(党派)別、期数別に見た参考図です。



	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	計
自民党・道民会議	11	8	5	12	5	4	3	3	51
民主党・道民連合	7	3	8	3	2	2	1		26
北海道結志会	4	2	2	2	1	1			12
公明党	3	4			1				8
日本共産党	3			1					4
計	28	17	15	18	9	7	4	3	101



新会派結成!道議会第3勢力へ

4月12日(日)の初当選で、4月30日(木)から4年間の任期がスタート。

国政与野党の枠組みにとらわれず、真に、道民と北海道のために、是々非々で知事と相対し、真摯な政策論議を挑むとの志の下に結集した12名により、北海道結志(ゆうし)会を結成。

安住は政策審議会の副会長を拝命しました。

平成27年第1回臨時会

改選後の新たな議会構成を決めることを主な議題とする第1回臨時会が、5月14日(木)から20日(水)までの日程で開催。

正副議長をはじめ、常任委員会、特別委員会の所属や役職等を決定。

安住は建設常任委員会と、産炭地域振興・エネルギー問題調査特別委員会への所属が決まり、それぞれの会派代表理事に就任しました。

平成27年第2回定例会

スタートした高橋道政の政策を具現化する補正予算(政策予算)を決めることを主な議題とする第2回定例会が、6月16日(火)から7月10日(金)までの日程で開催。

知事ならびに柴田教育長から、それぞれ、道政執行方針演説と教育行政執行方針演説が行われ、各会派を代表する

議員による代表質問が行われました。

結志会からは会長の金岩議員が質問。知事が道政最大の課題と掲げる「人口減少問題」をはじめ、首都圏等と異なり、依然として停滞感の強い本道経済の回復と雇用創出に向けた取組みや、水素社会の実現に向けたエネルギー問題、「大阪都構想」で話題となった政令市札幌市との二重行政解消に向けた連携について等、幅広い道政の諸課題に対する知事、教育長、警察本部長の考えを質しました。

また、総額およそ2,760億円に上る補正予算が、日本共産党会派の反対を除く賛成多数で、原案通り可決(日本共産党会派は、予算の組み換えを求める対案を提出しましたが、同会派を除く反対多数で否決)。

条例としては、昨年11月に、危険ドラッグを使用した者の運転する自動車が高校生に重傷を負わせた事故などを受け、現状では指定薬物となっていない危険ドラッグのうち、指定薬物同等以上の精神毒性を持つ薬物の使用、製造、販売等を禁止する条例や、住宅ローン減税拡充等の措置について対象期間を平成31年まで延長する条例など10件が、一部、日本共産党会派の反対を除く賛成多数、もしくは全会一致で、原案通り可決。

「飲酒運転根絶を宣言する決議」や、「介護報酬の見直し等に関する意見書」などを、一部、日本共産党会派の反対を除く賛成多数、もしくは全会一致で、原案通り可決。

意見書に関わっては、結志会として「安全保障法制の慎重審議を求める意見書」を提案。残念ながら、自民党会派、公明党会派ならびに、独自の提案を行った民主党会派による反対多数で否決となりました。

一般質問

安住は、当選後初の本会議、「一般質問」で登壇。
概ね、以下のような趣旨と内容で知事に対し質問いたしました。



質問の趣旨

豊かな食材や景観に恵まれ、本州やアジアから羨望の眼差しを向けられている北海道。

ところが、実際に住んでいる道民にとって、たとえば医療費は全国47都道府県中6番目に高く、逆に、健康寿命などは33番目と低く、大きく遅れをとっている。

多くの方にとって「健康で長生きできる暮らし」は、ぜひとも手に入れたい願いのひとつ。

また今の時代、その「健康」という他に代え難い価値を求め、「健康」を「売り」にする国や地域に世界中から人が訪れ、場合によっては移住すらする時代。

何よりも道民にとっての「安心・健康」な暮らしを実現し、また、健康長寿産業の振興や観光振興を通じ経済を活性化。

やがて、「そんな北海道にぜひ住みたい!」と移住する方がどんどん増えるような北海道をぜひ、ともに目指しましょう!

質問の大項目

1. 健康長寿社会の実現と医療制度改革について
2. 健康長寿産業の振興について
3. 観光振興について

詳しくは、北海道議会のホームページから、実際の質問の様子を動画でご覧いただけます。

<http://www.hokkaido-pref.stream.jfit.co.jp/index.php>

※「●議員名から選ぶ」を選択しクリック。次に表示される「安住太伸」の文字をクリックし表示される画面で右側にある「再生」ボタンをクリックいただくと、動画再生ページが表示されます。

読切 議会裏話

どちらが本当の議会?.....



本会議での質問が決まってから、当日、実際に議場で登壇する直前までの間。朝となく昼となく夜となく…延々と繰り返されたのが、「意見交換」と称する、道側の主幹(実務上の責任者クラス)の方々とのやり取りでした。

質問の趣旨を伝えた上で、具体的な項目に関し、現状や課題認識、これまでの取り組みや今後の対応について質していくその過程。本当のところ、これこそがまさに、議場で期待されている質問の、本来の姿そのものではないのでしょうか?

ところが現実には、そうした「意見交換」の結果、出来上がった「原稿」を、互いにただ読み合うだけに等しい場が、今の議場になってしまっています。

「意見交換」に膨大な時間と労力を注いだ挙句、本会議が「眠気を誘う」ものにしかならないのなら…一体、どちらが本当の議会なのか、何のために議会を開いているのか…何だか訳が分からなくなってしまいます。

俗に「答弁調整」と呼ばれるこの仕組みは、数ある地方議会の中でも、とりわけ北海道が際立って、「ガチガチに事前調整する」とのことで、その悪評はかねてより、私も耳にしておりました。

実際に自分がそれを体験することになり、「これはやはり変えなければならない」と痛感。早速、会派を通じて「早急に改革を要する事項」のひとつとして、議会運営委員会にその改善を要望・提案いたしました。

なお、この問題は、Facebookの記事の中でも取り上げ、その問題点、そうした仕組みの下で安住はどう質問に取り組んだのか、今後どう改善すべきなのか、といったことにつき、特集しています。よろしければぜひ、合わせてご覧いただければ幸いです。

※インターネットで「Facebook 安住たかのぶ」と検索していただければすぐ出てまいります。本文中、7月8日、同11日などの記事をご覧ください。